

旧竜森小跡地を「竜森小公園」に

●地元住民らで公園整備



▲旧竜森小跡地に地元住民や子どもらが木を植え「竜森小公園」と名付けました

学校統合のため閉校となった旧竜森小学校跡地を整備しようと11月8日、地元住民らが木を植え、「竜森小公園」と名付けました。

この日行われた植樹作業と公園の命名入魂の式には、住民ほか3月まで同小に通っていた児童、卒業生、教師など約100人が参加、約1畝のグラウンドにヤマモミジ、イタヤカエデ、ハウチワカエデなど計200本を植樹しました。

作業終了後の入魂式では新たに生まれ変わった公園を「竜森小公園」と命名すると大きな拍手が沸き起こりました。竜森学区振興協議会（大川昭一会長）では公園を、野外行事やスポーツなどでの交流の場として活用を図っていくこととしています。

勇気ある行動で延焼を阻止

●初期消火活動等の奏功者に感謝状を贈呈



▲消防長から表彰を受ける3人。左から内山太樹さん、桂田弘史さん、西根潤子さん

市消防本部は11月2日、北秋中央病院で発生した火災で初期消火活動等に尽力した市民らに感謝状を贈呈しました。

奏功者として感謝状を贈られたのは、西根潤子さん（花園町）、内山太樹さん（綴子）、桂田弘史さん（綴子）の3人。

火事は、10月14日午後11時頃に発生。西根さんは、待合室から中庭で火事が発生しているのに気がつく、すぐさま周辺に火事ぶれ。内山さん、桂田さんは、院内の消火器を手に取り、身を挺して初期消火を実施、延焼を阻止しました。

贈呈式で、藤島孝雄消防長は感謝状と記念品を手渡したあと、「皆さんの素早く的確な行動により被害を最小限に抑えることができた。心から感謝を申し上げたい」と勇気ある行動を称えました。

再会を喜び旧交深める

●第23回東京ふるさと森吉会



▲懐かしい昔話に花が咲いた「第23回東京ふるさと森吉会」

第23回東京ふるさと森吉会総会（奥田庄一郎会長）が11月1日、アルカディア市ヶ谷（東京都）で行われ、再会を喜びふるさとの話題などで旧交を深めました。

ふるさと懇談会では、津谷市長がふるさとの近況を報告し、内陸線存続などについて懇談を深めました。

総会で、奥田会長は「どこのふるさとにも年々会員が減ってきている。皆さんの知り合いなどに声をかけて、参加者が増えていくよう協力してほしい」などあいさつ。

交流会では、参加者が各テーブルを回り、会食しながら、旧友や知人との再会を喜び、懐かしい昔話に花が咲きました。最後は全員で「ふるさと」を大合唱して、生れ育った地に思いを馳せました。

考えよう相手の気持ち、育てよう思いやりの心

●「子ども人権デーの集い」 in 鷹巣南中



▲人権標語や人権作文の優秀作品表彰や発表をした、子ども人権デーの集い

平成21年度「子ども人権デーの集い」が11月13日、鷹巣南中学校体育館で開かれ、人権についての標語や作文の発表などが行われ、小中学生など約250人が参加し人権への理解を深めました。

集いは、大館人権擁護委員協議会（栗田修六会長）が組織する、県北地域人権啓発活動ネットワーク協議会の主催。

栗田会長が「鷹巣南中は、人権の花運動や人権活動に全校一丸となって取り組んでおり、人権思考の高揚に尽力され深く感謝します」などあいさつ。

この後、小学生人権標語入賞の田崎里花子さん（浦田小）、齊藤穂乃香さん（鷹巣中央小）、佐藤麻望さん（鷹巣南小）、中学生人権作文入賞の笹原菜優さん（鷹巣南中）らが標語や作文を発表しました。

人づくり、地域づくりに貢献を

●鷹巣スキーレーシングスポ少30周年式典



▲結成30周年を迎えた鷹巣スキーレーシングスポーツ少年団の記念式典

鷹巣スキーレーシングスポーツ少年団（奈良正人団長の結成30周年記念式典が11月14日、市交流センターで開かれ、参加した団員、卒団員、保護者、指導員ら約200人がこれまでの歩みを振り返るとともに、節目を喜び合いました。

奈良団長は「400名以上の卒団員は私の財産。自分のためだけでなく人のために時間を使う、という気持ちを持った大人になってほしい。30周年を機に原点に返り、未来に向かって一歩ずつ歩みを続けよう」など呼びかけました。

最後に、現団員を代表して鈴木祐貴さんと佐藤瑠希さんがトレーニングや合宿などの思い出を振り返りながら、「団員であることを誇りにこれからも頑張りたい」と決意のこぼす述べていました。

息長く声の広報活動を

●朗読ボランティアやまびこが30周年



▲長きにわたり「声の広報」活動を行ってきた朗読ボランティアやまびこの30周年記念パーティ

広報紙などの音読テープを制作し、市内の視覚障害者に届ける活動を行っている朗読ボランティア「やまびこ」（三澤甲江代表）の30周年記念パーティが11月15日、市内の料亭で開かれ、これまでの歩みを振り返るとともに、グループの発展を誓いました。

三澤会長は、「活動を続けてこられたのは、使命感とともに地域のみなさんの支えがあったから。これからも頑張っ続けていきたい」などあいさつ。

また、音読テープの利用者でもある来賓の北秋盲人協会・吉田勝春会長は、「音読テープによって精神的に社会参加ができていく、という自覚がある。会の発展を心から応援したい」と感謝の気持ちを伝えました。